

OLIVE-SPIRIT

関東学院学報 オリーブ・スピリット

September.2018

No.

55



持続可能な発展を目指し、2022年横浜都心部へ進出
関東学院大学が新キャンパスを関内駅前に開設

2022年、JR関内駅前に関東学院大学の新しいキャンパスが誕生します。地上17階・地下2階の高層ビルを拠点に、国際都市・横浜に相応しい教育を開設します。今号では6ページにわたり、新キャンパス開設計画に関する情報を伝えいたします。まずは増田日出雄理事長に、本プロジェクトの概要と経緯を語っていただきます。

横浜の中枢に相応しい
教育を展開

関東学院大学は、横浜市が公募していた「教育文化センター跡地の活用事業者」に応募し、本年3月15日に正式に決定を受けました。2022年4月の開設に向け、地上17階・地下2階からなる都市型高層キャンパスの建設計画を進めてまいります。

教育文化センターがあつた関内・関外地は、行政・商業が盛んで、利便性に優れ、観光資源も豊富なエリアです。市民、企業、起業家、外国人、自治体など様々な主体が集積する環境で、関東学院大学が近年推進している「社会連携教育」をさらに強化してまいります。また、このエリアでは「横浜スポーツタウン構想」をはじめとした、新たなまちづくりが進行中ですので、文化・スポーツ等において、私達の様々な

知的資源を活用していただける機会もあるでしょう。

科に所属する約2500名の学生が、横浜市が重視している「国際的な産学連携」「観光・集客」というテーマとも合致し、街と大学が一体となって発展していくと期待しております。

また、社会人が必要に応じて大学等で学び直す、いわゆる「リカレント教育」にも精力的に取り組んでまいります。技術進展の著しい現代社会において、10年前に習得した技術はほとんど使い物になりません。社会人や企業等

を対象としたプログラムを、様々な学問分野で機



新キヤンパスはなぜ必要か
大学を取り巻く社会の変化

今、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。背景の一つに挙げられるのが「18歳人口の減少」です。2017年に約120万人いた18歳人口が、2030年に約103万人、2040年には約88万人まで減少すると試算されています。文部科学省の推計によれば、今後の大学進学率はほとんど伸びず、多くの大学において経営が成り立たなくなるとの指摘もあります。私達はこうした変動に対し十分耐えられるような対策を講じていかなくてはなりません。

また、大学のあり方や人材育成ニーズも変わりつつあります。人間の仕事がAIやロボットへ置き換わるという時代で、専せん。

もみなとみらい地区や北仲地区などへの進出を検討したものの、入札方式ではホテル業者やマンション業者に太刀打ちできないのが現状でした。

しかし、今回の横浜市の公募は、関内駅周辺のまちづくりと絡めた提案重視のプロポーザル方式で実施されました。私達はこれを大きなチャンスと受け止め、プレゼンテーションを行い、結果として非常に高い評価をいただくことができました。

今回の投資にあたっては、老朽化した校舎の建て替えに備えて、減価償却として積み立ててきた資金を使用します。同じ額を投資するならば、既存のキャンパスの校舎を建て替えるより、横浜都心部に新たな拠点を構えたほうが、関東学院の将来こぎつてプラスになることを確信

**地域と信頼しあいながら
共に発展していく**



積年の努力が実った
横浜都心部への進出

地域に根ざした教育を標榜する関東学院としては、以前から横浜市の中心に出て教育をしたいとの思いがありました。私が学院に来て9年目になりますが、その間に

我々経営陣、教員、職員からのメンバーで構成するワーキンググループにおいて、皆様のご理解をいただきながら検討を行い、進めていくつもりで、みたいと考えています。



学校法人 関東学院 理事長

増田 日出雄

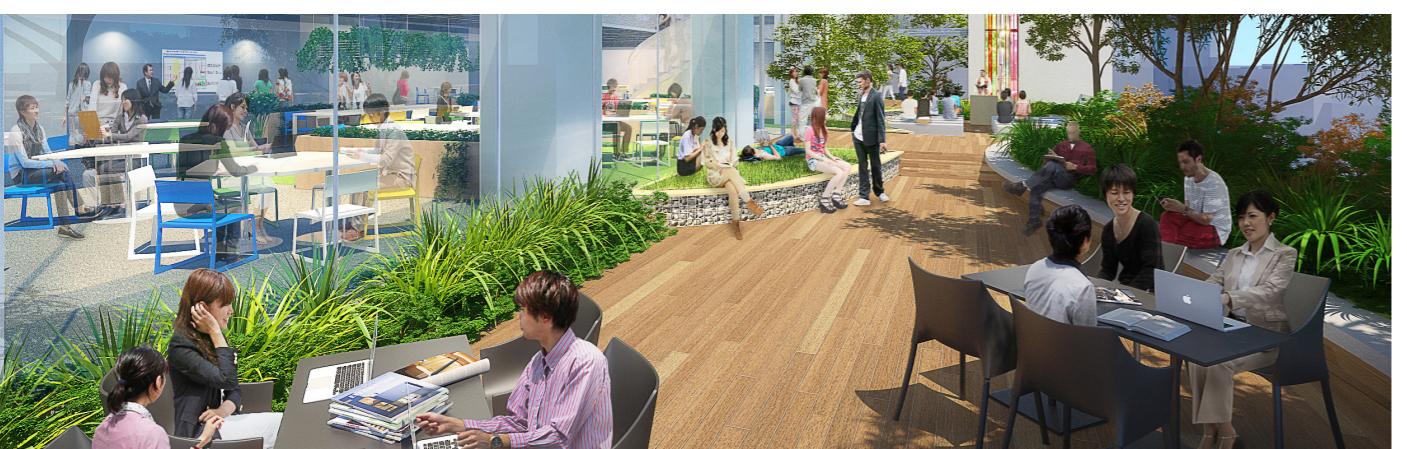
1962年関東学院大学経済学部経済学科卒業、日本揮発油株式会社(現日揮)入社。2002年同社代表取締役副社長、2006年同社代表取締役副会长就任。2009年7月学校法人関東学院常務理事・評議員を経て、2013年4月学校法人関東学院理事長就任。

関東学院大学の挑戦 「新キャンパス・プロジェクト」

横浜をホームタウンとして、地域に根ざした教育を実践してきた関東学院大学。新キャンパスで期待されるのが、様々な交流をベースにした「社会連携教育」の推進です。また、4か所に分散するキャンパスの「機能分化」にも同時進行で取り組みます。そこで今回のプロジェクトの意義について、規矩大義学長がお話しします。

関東学院大学が目指す 社会連携の新たな拠点

関東学院大学は、JR関内駅近くの横浜市教育文化センター跡地に、2022年4月に新キャンパスを開設します。同キャンパスでは、学生だけでなく、企業・自治体・市民などに開かれた教育プログラムを設置し、イノベーション拠点を目指します。そして、横浜都心部に拠点を持つことで、私達がいま最も力を入れている「社会連携教育」をさらに推進していきます。



学生が地域社会に出て企業や自治体と共に学ぶ社会連携は、最近のトレンドであり、どの大学も重要なテーマとして位置付けています。しかし、ただ学生を社会に送り出して何かを経験させたり、企業や自治体に指導をお願いするだけでは、主体性のない他力本願的な教育に終始してしまうで

す。そこで、四つのキャンパスの役割を明確にし、機能分化します。

湘南・小田原キャンパスは、じっくり研究に向き合える環境と充実した設備を活かし、今後も研究・研修拠点として運営していく海外と連携したグローバルな実践教育に取り組む人間共生学部コミュニケーション学科です。また、大学全体の社会連携の総合窓口として機能させ、学生達の学びと、地域社会との連携をサポートします。

新キャンパスでは、大学の教育施設のみならず、低層部に市民にも開放する施設やコワーキングスペースなどを設け、学生と市民、企業人との自発的な交流や新たなイノベーションの創出を促します。立地の良さを活かし、社会人や市民を対象としたプログラムも充実させます。都内や横浜で仕事をした後でも十分に学べるので、卒業生の方々にも新たな知識獲得の場として活用していただければと思います。

機能と目的を分化して キャンパスを有効活用

新キャンパス設置に伴う、もう一つの重要なミッションが「キャンパスの機能分化」です。たとえば、大学と揶揄する言葉も生まれるほど、現在、どこの大学も分散したキャンパスの統合が大きな課題となっています。本学は昨年度に小田原から金沢八景へと法学部を移転しましたが、教育の環境はできる限り一つにまとめた方が、学生一人ひとりに対しきめ細かいサービスを提供できるだろうと感じています。そのため、新キャンパスの開設と同時に国際文化学部

と社会学部は金沢八景へと移転する予定であります。その上で、新キャンパスは、近隣の企業や地域との連携において一定の成果を上げてきましたが、

教育を可視化して 新たな連携の追い風に

関東学院大学は近年、企業や地域との連携において一定の成果を上げてきましたが、

関東学院大学の考える社会連携教育は、学生が早い段階で本格的に社会に出て行き、いかに自分が未熟か、いかに知識が足りないかを実感するところから始まります。そして、大学に戻つて足りない部分を主体的に身につけ、再び社会で実践するというサイクルを繰り返すことを重視しています。その目標を手助け、達成させるため、教員も今以上に実践的な取り組みが必要です。そのためには、実社会にできるだけ近い場所で、多くのこ

社会での実践から 学ぶ3つの学部学科を移転

とを感じ取り、追究できる拠点を持つことが重要です。その意味で、開港以来の国際都市で、横浜の経済・文化の中心地である関内・関外地区は、これ以上ない理想的な環境と言えます。



▲多様な主体が集うイノベーション拠点

新キャンパスには、その地域性を活かし、社会連携教育に特に積極的に取り組んでいる3つの学部学科を移転します。社会連携教育プラットフォーム「Kibi



関東学院大学 学長

規矩 大義

1993年九州工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了。
横浜国立大学助手を経て、官民の防災研究の職場を経験。
2002年関東学院大学工学部着任。2013年12月学長就任。
2017年再任(2期目)。専門は地盤防災工学。

地域の新たな活力の原動力として多様な機能を搭載 新キャンパスの施設概要

関東学院大学の挑戦 「新キャンパス・プロジェクト」

新キャンパスのコンセプトは、知の交流拠点「オープンナレッジポート」で既存の大学のイメージを超えた、開放的なキャンパスと魅力的な機能により、様々な主体が集まり交じり合い、新たなイノベーションを誘発します。

大学経営課の芦澤力課長が、新キャンパスの設備をご紹介します。

周辺環境と外観 街のランドマークに相応しい 街のデザイン

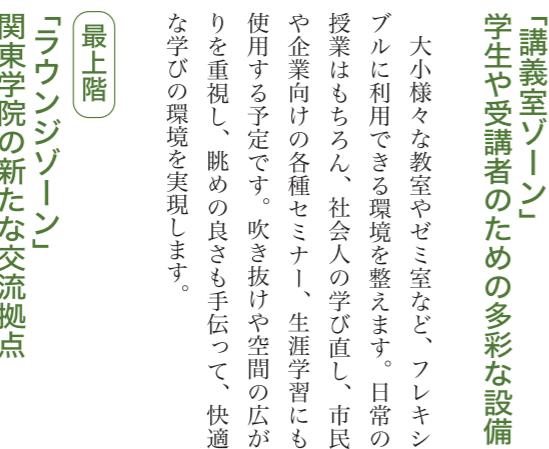
関内・関外地区は現在、官民一体のまちづくりが進行中です。「横浜ユナイテッドアリーナ」「横浜武道館」などの建設も予定され、文化・スポーツ面において再開発が進んでいます。

JR関内駅から徒歩約2分の新キャンパスは、地上17階・地下2階の高層ビルです。横浜の歴史・文化を継承しつつ、進取の精神や多様性に満ちた街に相応しいデザインを目指します。中層部には透明性が高く立体的なガラスファサードを採用し、開放的でありながら西日を遮蔽します。外からも建物内の人々の動きが感じられ、夜には内部の照明が透過して街に賑わいをもたらします。また、低層部には一部レンガを採用



全館的な使用も

▶ 透明性の高いコーナー部



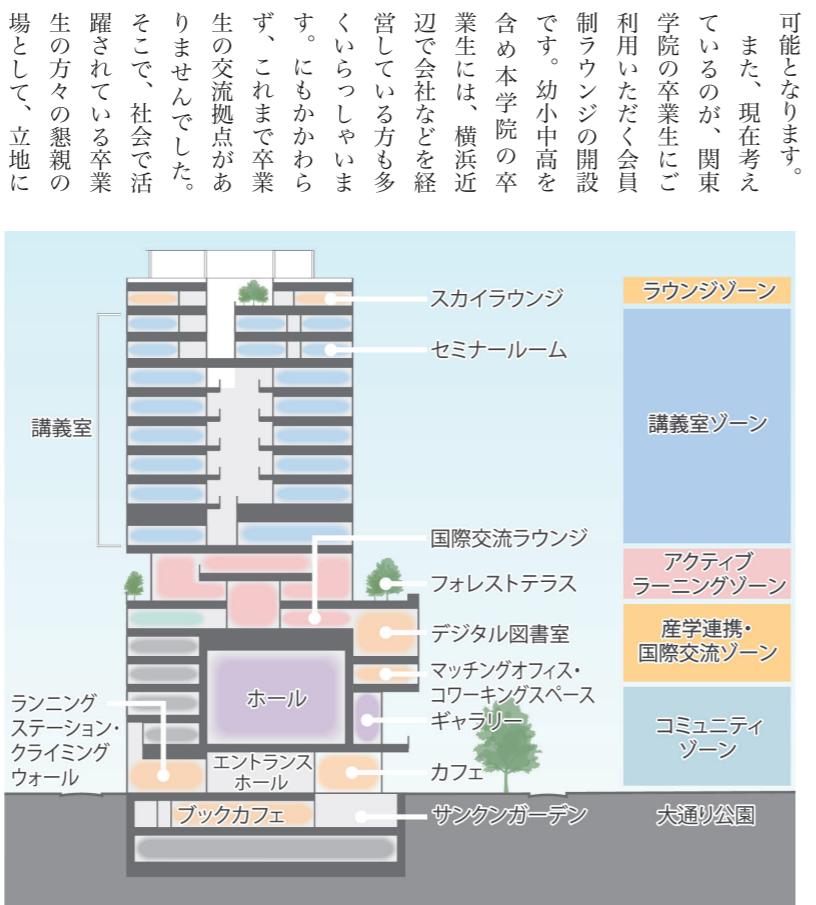
も検討しています。7階には学生、教員、来訪者の憩いの場として、緑豊かな「フォレストテラス」を設置。この緑のテラスは街の景観にも大きな効果をもたらします。

大小様々な教室やゼミ室など、フレキシブルに利用できる環境を整えます。日常の授業はもちろん、社会人の学び直し、市民や企業向けの各種セミナー、生涯学習にも使用する予定です。吹き抜けや空間の広がりを重視し、眺めの良さも手伝って、快適な学びの環境を実現します。

このように新キャンパスでは、大学がラウンジテーブルの役割を果たし、様々な「知の交流」を促進して、地域の活性化と学生のさらなる学びを推進します。関東学院大学の新たなチャレンジにご注目ください。



関東学院大学 大学経営課 課長
芦澤 力



するなど、新旧が交じり合うデザインです。建物周辺は、大通り公園や関内駅に向けてオープンスペースを確保し、人の流れを誘導すると共に、街との一体感や連続性を演出します。

低層部

「コミュニティゾーン」
様々な仕掛けで集客に貢献

キャンパス低層部は、市民にも一般開放する施設やアクティビティを充実させます。大通り公園側のオープンスペースと連続した空間「サンクンガーデン」を地下1階に設置。「ブックカフェ」を併設し、地域の知の交流を促します。サンクンガーデンには屋根や給排水設備があるので、イベント等にも活用できます。

1階には「オープンカフェ」のほか、「ランニングステーション」や「クライミングウォール」を設置し、地域のスポーツマインドを誘発します。ロッカー・シャワー完備で、学生には空き時間などに利用していただきたい施設です。

2階から4階を使って設置する700人規模の「ホール」は、シンポジウムや学校行事のほか市民にも開放し、地域の集客に貢献します。また、ホワイエを「ギャラリー」として利用し、文化・芸術活動を支援します。

1階には「オープンカフェ」のほか、「ランニングステーション」や「クライミングウォール」を設置し、地域のスポーツマインドを誘発します。ロッカー・シャワー完備で、学生には空き時間などに利用していただきたい施設です。

2階から4階を使って設置する700人規模の「ホール」は、シンポジウムや学校行事のほか市民にも開放し、地域の集客に貢献します。また、ホワイエを「ギャラリー」として利用し、文化・芸術活動を支援します。

中層部でも様々な人々が行き来します。学生や社会人、起業家などが協働可能な「コワーキングスペース」を設置し、併設



法の知識を活かし、地域創生に貢献する人材育成を実践 さらなる教育の拡張に挑む「法学部」

法学部は昨年、横浜・金沢八景キャンパスへの移転を機に「地域創生学科」を開設しました。法学科では座学中心のスタンダードな法の学びを軸に、公平・公正な人材育成を、地域創生学科では法的思考をベースに、地域と連携した実践的な学びを展開しています。

移転から1年半を経て、その目指す先と新たな取り組みを村上裕学部長にうかがいました。

現場の声を直に聞く 「地域創生特論」

地域創生学科を開設して1年半が経ちました。現場の声を聞き、現場で学ぶという地域創生学科の様々な取り組みが、学部全体に浸透し、積極性のある学生が増えたと感じています。先日、自ら企画して地方自治体やNPOと交渉しインターンシップを実行した学生達がいたのですが、それは法



▲ 学生に熱く語り掛ける平井竜一逗子市長



▲ 本学卒業生でもある山梨崇仁葉山町長の講義

学科の学生が中心でした。今後もキャンパスに留まらず、地域と連携とした教育を推進し、相乗効果を図っていきます。

昨年度に開設した「地域創生特論」は、神奈川県内の11自治体が各1科目を担当し、首長や職員が講義をする科目です。地域で問題の解決に尽力する方々の話を、学生が直接聞くことができ、今年度は受講者も増えています。来年度は新たに「地域創生特論(沖縄)」を、本学の科目として沖縄大学

で開講する予定です。これは、後述する「沖縄創生まじゅんプロジェクト」の一環として行われる授業で、同時に中継や双方向システムを導入し、横浜にいながら、沖縄とができます。

地域に飛び込んで学ぶ 「演習」「インターンシップ」

地域創生学科では、地道なフィールドワークを通じて、持続可能な地域のあり方や施策を考える「地域リーダー育成演習」や「防災復興演習」を実施しています。指導するのは、自治体での実務経験を持つ教員達です。

一例として、春学期の「地域リーダー育成演習」では、過疎化が進む群馬県上野村での調査・撮影・取材とプロモーション動画の制作に取り組みました。住民の方々にも村の魅力を再認識していただき、地域作りの活力につなげることが学生達の狙いで



▲ 群馬県上野村で地元住民を取材する学生達

2018年度 演習(4科目)一覧

地域リーダー育成演習1(春学期)	群馬県上野村を舞台とした調査・撮影・取材とプロモーション動画の撮影
地域リーダー育成演習2(秋学期)	ボートレース戸田(埼玉県戸田市)を活性化(集客)するための具体的な提案
防災復興演習1(春学期)	岩手県陸前高田市の現地演習を通じ、被災地の復興施策を提案
防災復興演習2(秋学期)	東京都東大和市に防災体制の推進や自主防災組織の活性化等に関する提案

す。法学部では、こうしたフィールドワークを強みとして成長させ、枠を広げていくつもりです。

また、今年度初めて学部独自の「自治体等インターンシップ」を実施しています。県内の自治体、消防局、警察署、企業にご協力をいただき、夏休み期間に65名を派遣しました。法学部には将来の進路として公務員を考えている学生が多く、様々な形で現場の実態を知ることは有効だと考えています。

全学的な新しい取り組み 「沖縄創生まじゅんプロジェクト」

様々なネットワークを活用し、こうしたシンポジウムを積極的に開催しています。最前線で活躍する方々の言葉は、学生はもちろん、教員にも大きな刺激となります。12月1日には、東京裁判判決から70周年を記念して、東京裁判研究の第一人者であるハワイ大学・戸谷由麻教授による講演会を開催予定です。

への参加や、酒造組合などと連携し、地場産業を体験するプログラムなど、様々なコントラクトを予定しています。

私としては、同様の取り組みを、他の自治体にも広げていきたいですね。被災地の大学と組んで魅力発見プログラムを実施するなど、様々な可能性が期待できます。

法というと、裁判やトラブル解決のための判断基準というイメージが強いですが、「法律は新しい社会を作るための設計図」でもあります。多様な特性や問題を内包し、日本の縮図ともいえる神奈川をフィルドに、法の新たな役割や地域の施策について学ぶ場として、日本全体の地域活性につながる学部学科になつていきたいと思います。

トップランナーから学ぶ 「シンポジウム」

今年6月に地域創生学科開設1周年および地域創生実践研究所設立を記念し、岩手県の達増拓也知事らを招いて、「被災地の復興とこれから地域創生の可能性」をテーマとするシンポジウムを開催しました。学生も議論に参加し、震災復興の視点から、地域作りのヒントや課題を見出すなど、日々の学びの糧としています。法学部では

日本全体を活性化する 学びの場として

2022年には、関内に新設されるキャンパスに地域創生学科が移転します。官庁街でもあり、利便性の良さから、さらに連

携が進めやすくなるでしょう。現キャンパスに残る法学科とも、遠隔システムによる同時開講授業やオンライン配信など、新しい取り組みを検討中です。

法というと、裁判やトラブル解決のための判断基準というイメージが強いですが、「法律は新しい社会を作るための設計図」

でもあります。多様な特性や問題を内包し、日本の縮図ともいえる神奈川をフィ

ルドに、法の新たな役割や地域の施策について学ぶ場として、日本全体の地域活性につながる学部学科になつていきたいと思

岩手県・達増拓也知事による講演の様子

関東学院大学地域創生実践シンポジウム
被災地の復興とこれからの地域創生
—復興の先に地域創生の原点がある!

横浜・東日本大震災津波
避難所と被災者支援

岩手県知事

平井竜一逗子市長

奈川県立大学

中間大学

山梨崇仁葉山町長

奈川県

先進的な取り組みと地域連携について井上恵子園長に聞きました

皆で食べる楽しさの中で
元気に育つてほしい



関東学院のびのびのば園 園長 井上 恵子

充実した食育環境は、のびのびのば園の大きな特色です。給食室、ランチルーム、キッズキッチンを完備し、管理栄養士2名と調理スタッフが作る給食を毎日子ども達に提供しています。また、食に関する情報を楽しく掲示したり、年齢や成長に応じた様々な活動を通じて、子ども達に食の大切さや楽しさを伝えています。

年長の子ども達はランチルームで、自ら分量を考えながら盛り付け、配膳して給食を食べます。食べる前には、どう体にいいのか、どんな人が育てた野菜か、どんな国



▲ ランチルームでお友達と楽しく食事

くだりますね。他にも、子ども達が街の飲食店に実際に行つてみたり、近所の畑でサツマイモを植えて収穫するなど、地域の方々と連携した体験プログラムも実施しています。

入園するお子さんの中には、食べることに興味のない子、給食を嫌がる子、好き嫌いが激しい子も多いのですが、ここで生活しているうちに自然と食べるようになります。例えば、子ども達が園庭で育てた野菜を皆で一緒に調理して味わうと、野菜嫌いな子でも食べてしまうんです。興味や関心次第で食欲や嗜好は変わってくるのだと実感します。

の料理など、その日の献立について栄養士が説明し、子ども達の好奇心や視野を広げています。また、キッズキッチンでは簡単な料理やおやつのクッキングにも挑戦します。年長の子ども達の希望で、本格的なバターチキンカレーやナンを作ったこともありました。保護者会でも時々、親子と一緒に料理やパン作りなどをですが、意外とお父さん達が興味を持つて参加して



くだりますね。他にも、子ども達が街の飲食店に実際に行つてみたり、近所の畑でサツマイモを植えて収穫するなど、地域の方々と連携した体験プログラムも実施しています。例えば、小3から中1くらいの子ども達を招き、一緒に料理を作つて食べたり、ゲームを楽しむ催しを、大学の栄養学部の学生達と協力して実施しました。長期休暇中の昨年12月と今年3月に1回ずつ、そしてこの夏休みには3回開催し、地域にも浸透しつつあります。これからも子ども達が安心して過ごせる居場所作りを推進していきます。



また、園児だけでなく、子育て支援の一環として、地域の子ども達を対象とした食育プログラムにも取り組んでいます。例えば、小3から中1くらいの子ども達を招き、一緒に料理を作つて食べたり、ゲームを楽しむ催しを、大学の栄養学部の学生達と協力して実施しました。長期休暇中の昨年12月と今年3月に1回ずつ、そしてこの夏休みには3回開催し、地域にも浸透しつつあります。これからも子ども達が安心して過ごせる居場所作りを推進していきます。

「伝える力」を伸ばすためのICT教育

関東学院小学校

デジタル・ネイティブ世代の子ども達に必要な教育を実践

今的孩子達は生まれた時からICT機器に囲まれて育っています。スマートフォンで論文やレポートを書く若者はもちろん、もはやパソコンやキーボードを知らない若者すら登場するなど、世の中は予測できない勢いで変化しているのです。

そんな21世紀の社会を創り、担つていく子ども達に必要な資質は何かを考え、本校では「ほんの学校」と「ICT教育」を柱に、「アノログからデジタルまで」と称して多彩な教育を開拓しています。このうち「ほんの学校」は、活字と親しみながら想像力や自分らしさを伸ばすことを狙いとしています。こうした能力は将来、いかなる社会を生きしていく上でも大きな強みとなるものです。

一方、加速する社会のデジタル化に対応するには、小学校の段階からICT機器に自然に触れていく学習環境が必要です。そこで2013年に最先端のICTインフラを整備しました。全館をWi-Fi化し、教室には電子黒板（インターラクティブ・ホワイトボード）と超短焦点プロジェクターを

設置。子ども達の手元や教材を簡単に映し出せる实物投影機や、教室のどこにいても明瞭に音声が聴こえるラインアレイスピーカーも導入しています。また、PCルームにはノートパソコンとiPadを40台ずつ完備しています。

ICT機器を活用した教育の狙いは主に二つです。一つは、教員側が活用することで、画像や映像を取り入れた授業を実践し、子ども達の意欲や理解度を高めることです。全教員がノートパソコンを持ち、各教科でデジタル教科書や教材ソフトを使って、言葉では伝えづらい図形や事柄を効果的に説明しています。また、iPadを活用した漢字や計算のドリル学習も行っています。



▲ パソコンを使って楽しくお絵描きする授業

もう一つは、子ども達自身が「伝える道具」としてICT機器を活用し、技能習得や思考の拡大を目指すことです。パソコンの授業では、低学年からペインントソフトによるお絵描きなどで基礎を学び、中学年からはパワーポイントなどのソフトを使つた制作や、iPadで撮影した画像の編集・加工にも取り組みます。高学年では自らテーマを設定し、グループ学習を実践して表現するか」を学び、発想や思考を広げていく教育を今後も推進していきます。

こうした取り組みに加え、2020年度から必修化される「プログラミング教育」を見据え、レゴ®を組み立ててiPadで操作する教材「WeDo 2.0」を導入しました。これにより、子ども達自身が「伝える道具」としてICT機器を活用し、技能習得や思考の拡大を目指すことができます。将来的にはiPadを一人一台ずつ導入したいと考えています。

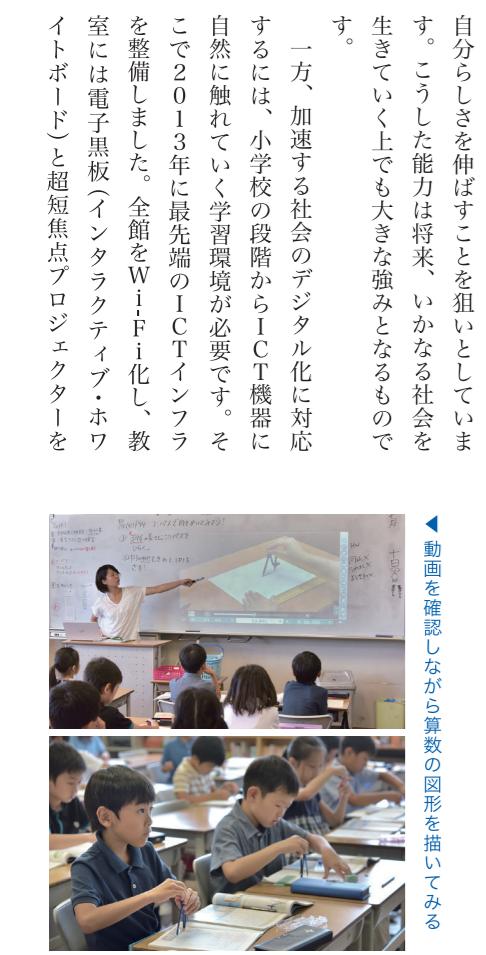
いずれはノートや鉛筆といった文房具と同じように、各自がデバイスを自由に教室に持ち寄る時代が来るでしょう。とはいえ、鉛筆で文章を書いたり、本を手に持つて読むことの重要性は今後も変わることはありません。デジタルとアノログが共存する環境の中で、「どんな時に、何をどう使って表現するか」を学び、発想や思考を広げていく教育を今後も推進していきます。



関東学院小学校 校長 岡崎 一実

た。プログラミングの課題に取り組み、試行錯誤して答えを導き出す学びを進めています。今後はインフラ整備の見直しを図り、さらに一步先へと発展させたいですね。将来的にはiPadを一人一台ずつ導入したいと考えています。

いずれはノートや鉛筆といった文房具と同じように、各自がデバイスを自由に教室に持ち寄る時代が来るでしょう。とはいえ、鉛筆で文章を書いたり、本を手に持つて読むことの重要性は今後も変わることはありません。デジタルとアノログが共存する環境の中で、「どんな時に、何をどう使って表現するか」を学び、発想や思考を広げていく教育を今後も推進していきます。



こうした取り組みに加え、2020年度から必修化される「プログラミング教育」を見据え、レゴ®を組み立ててiPadで操作する教材「WeDo 2.0」を導入しました。これにより、子ども達自身が「伝える道具」としてICT機器を活用し、技能習得や思考の拡大を目指すことができます。将来的にはiPadを一人一台ずつ導入したいと考えています。

また、園児だけでなく、子育て支援の一環として、地域の子ども達を対象とした食育プログラムにも取り組んでいます。例えば、小3から中1くらいの子ども達を招き、一緒に料理を作つて食べたり、ゲームを楽しむ催しを、大学の栄養学部の学生達と協力して実施しました。長期休暇中の昨年12月と今年3月に1回ずつ、そしてこの夏休みには3回開催し、地域にも浸透しつつあります。これからも子ども達が安心して過ごせる居場所作りを推進していきます。



関東学院大学 硬式野球部 投手コーチ

薮田 安彦 さん

1973年大阪府生まれ。上宮高校、新日本製鐵広畠を経て95年ドラフト2位で千葉ロッテ入団。06年WBC日本代表。07年最優秀中継ぎ投手獲得。その後MLBカンザスシティ・ロイヤルズ(08-09年)、千葉ロッテ(10-13年)、13年現役引退、解説者として活躍中。

現役引退から約5年を経て、指導者の勉強を始めたいたと笑顔で語る矢先、縁あって硬式野球部の鈴木聰監督から要請をいただき、今年2月よりピッチングコーチを務めています。僕の持つ技術や経験を選手達に

わかりやすく伝えていきたいと思っています。

僕にとって大学野球は未知の世界で、最初は部員の多さに驚かされました。投手だけで50人近くいる人数を、どうやって練習させればいいか、どうすればうまくいくのか、僕なりいろいろと考えました。そこで春季リーグ終了後、投手全員と一緒にずつ面談をして、どんな投手になりたいか、そのためには何を強化すべきかなど、今後の練習方針について話し合いました。その後、投手一人ずつ面談をして、どんないかが大切です。僕自身、選手時代は上から押さえつけられること、特に理由もわからず選手時代は上から押さえつけられること、が嫌いなタイプで、練習させられることがすごく嫌でした。

だから、部員達にはできる限り、目的や効果を説明して納得してもらえるように努めています。

皆、すごく前向きに取り組んでくれていますね。部員の中には卒業後も上のレベルで野球を続けたい子もいれば、逆に大学で完全燃焼したい子もあります。でも、同じユニフォームを着てやっている以上、スタイルは一緒です。だから全員、試合で投げさせるつもりですし、その上で良い部員としてやりやすかったですね。やはりコミュニケーションは大事ですし、部員達には聞きたいことがあれば遠慮せずにどんどん聞いてほしいと伝えています。春季リーグでは3位と悔しい思いをしているので、秋はぜひ皆で喜べる結果を出したいで



▲ バレンタイン監督のもとで中継ぎに転向し大躍進
プロ(国内)通算 48勝 72敗 67セーブ 112ホールド

元メジャーリーガーが大学硬式野球部・投手コーチに就任 技術と精神、経験を余すことなく伝えたい



関東学院大学 ラグビー部 コーチ

立川 剛士 さん

1976年佐賀県生まれ。佐賀工業高、関東学院大学を経て、東芝ブレイブルーパス入団。ポジションはフルバック。2016年引退までに3度のMVPと2度のベストファイフティーに選出。日本代表通算キャップ数21。

務めるなど、後進の育成に力を注いできましたが、今年4月1日付で正式に本学コーチに就任し、指導にあたっています。

僕らの時代と比べると、今の学生達は真面目な反面、がむしゃらになり切れない部分がありますね。上手いとか下手とか関係なく、グラウンドでは全てを出し切ってほしいと思います。ラグビーの原点ですし、そうしなければ仲間の信頼も得られません。だから「手を抜くな」「チャレンジしろ」と常に伝えています。その上

グビーを楽しむことができました。
“ONE for ALL, ALL for ONE”という言葉がありますが、体を張るラグビーでは、仲間を大切にする気持ちや、人間性が主将として連覇を経験しました。翌年は主将として連覇を経験しました。思い返すと大学時代が一番楽しかったですね。変な奴ばかりで、でもラグビーだけは真剣で(笑)。当時の春口廣監督も伸び伸びやられてくれ、結果を気にせず、純粋にラグビーを楽しむことができました。

僕は3年生の時に大学選手権初優勝を獲得して、その後も連覇を経験しました。翌年は主将として連覇を経験しました。思い返すと大学時代が一番楽しかったですね。変な奴ばかりで、でもラグビーだけは真剣で(笑)。当時の春口廣監督も伸び伸びやられてくれ、結果を気にせず、純粋にラグビーを楽しむことができました。

僕は3年生の時に大学選手権初優勝を獲得して、その後も連覇を経験しました。翌年は主将として連覇を経験しました。思い返すと大学時代が一番楽しかったですね。変な奴ばかりで、でもラグビーだけは真剣で(笑)。当時の春口廣監督も伸び伸びやられてくれ、結果を気にせず、純粋にラグビーを楽しむことができました。

僕は3年生の時に大学選手権初優勝を獲得して、その後も連覇を経験しました。翌年は主将として連覇を経験しました。思い返すと大学時代が一番楽しかったですね。変な奴ばかりで、でもラグビーだけは真剣で(笑)。当時の春口廣監督も伸び伸びやられてくれ、結果を気にせず、純粋にラグビーを楽しむことができました。



▲ トップリーグで3度のMVPに輝く

大学選手権2連覇を達成したレジェンドが「コーチに就任 強いラグビー部の復活を目指して

母校・関東学院大学にコーチとして帰ってきました。トップリーグや日本代表での経験を活かし全力で取り組んでいきます。

社会人として17年間プレーしましたが、将来はコーチングをしたいという思いが



株式会社ナップス 代表取締役社長 望月 真裕さん

1982年横浜市生まれ。2005年関東学院大学経済学部経営学科卒業、スターツ株式会社入社。2007年株式会社NIKKEI創業者として代表取締役社長就任。2015年株式会社ナップス常務取締役。2017年同社代表取締役社長就任。

両親を含めて家族全員、関東学院の出身です。小学生から三春台で過ごし、中高では野球に明け暮れ、大学では経営を専攻しました。

ナップスは祖父が創業した会社です。私は会社を継ぐ気ではなく、高校生の時から起業することばかり考えていましたね。

大学2年生の時に不動産業界で起業しようと決め、宅地建物取引士を取得。卒業後は不動産会社で経験を積み、24歳で業界の古い慣習を打ち破るべく不動産ベンチャー企業を設立しました。年商7.6億円のグループへと順調に成長してきましたが、祖父が倒れたことを機に、思ひがけず私がナップスを継承する話になつたんです。自分が育てた会社を去ることに私なりの葛藤がありました。数年かけて事業を継承し、昨年2月、35歳でナップス代表取締役に就任しました。

ナップスは現在、国内外23店舗を開設する日本最大級のオートバイ用品店で、創業56周年の老舗企業です。ニッチな業界ながらも、少子高齢化の影響はもちろんあります。



オートバイ用品店 ナップス

神奈川県7店舗をはじめ国内22店舗・台湾1店舗、計23店舗を展開する日本最大級のオートバイ用品店。ウェブショップは30万点以上の品揃えを誇る。各店舗情報はホームページ参照。(写真は台湾店)
<http://www.naps-jp.com>

ば身につけることができるでしょうか。

学院各校では、学生が主体的に学ぶ動機づけになるような実践的な社会連携教育の推進や、次の社会で求められる知識やスキルの基礎をつくるICT教育やグローバル教育に積極的に取り組んでいます。また、社会において自立して生きるために広く深い知識と技術を養い育て、どんな時代にあっても、人のため、社会のために尽くすことに喜びを感じられる人に成長できるよう、校訓「人になれ 奉仕せよ」を実践する教育・研究の向上を図っていきます。これから関東学院のさらなる挑戦にご期待ください。

関東学院大学 広報課 (045) 786-7049 / kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

若くして成功した手腕で老舗に新風を吹き込む オートバイの楽しさをもつと多くの人へ



銀座ろくさん亭 料理長 宮永 賢一さん

1990年関東学院大学経済学部経済学科卒業。人気番組「料理の鉄人」助手を務め、95年「銀座ろくさん亭」入店、道場六三郎氏に師事。2003年横浜「和食 結」料理長を経て07年「銀座ろくさん亭」料理長就任。

僕は横浜で生まれ育ち、大学では陸上競技部に所属して箱根駅伝を目指していました。残念ながら出場は叶いませんでした。が、陸上競技部の仲間とは今でも正月三日に集まり、朝から酒を飲みながら駅伝を観るのが恒例です。

卒業後はスポーツ用品会社に就職しましたが、1年ほどで退社し、新横浜の居酒屋チエーン店でアルバイトを始めました。その店の関係者のツテで、テレビ番組「料理の鉄人」の調理助手をたまたま務めることになったんです。助手といつても、有名な店で働いている人ばかりです。助理といつでも、何もわからぬ僕は必死でしたね。でも、その段取りを考えたり、相手の気持ち察して行動することは、どこで働く人だなということです。やがて鉄人や周囲の方々も僕のことを可愛がってくれるようになります。すごく勉強させていただきました。

道場のおやじさ 道場の鉄人として働きたいとも一緒に働いていても一緒に働くことは、どこで働くんだなということです。やがて鉄人や周囲の方々も僕のことを可愛がってくれるようになります。すごく勉強させていただきました。

1995年。本当に大変なのはここからでした。10代から和食を学ぶ人達がいる中で、桂剥きもろくにできない27歳の素人が入ったわけです。辛いことも多かったです。が、笑顔で一生懸命に頑張っていれば見てくる人は必ずいることも知りました。

今は銀座ろくさん亭の料理長を務めています。創業から47年、カウンター席もあり、肩肘張らずに料理と酒を楽しんでいただけの店です。帰り際に「ああ、この鮎、あと何回食えるかな」と言つて帰る常連さんがいるんです。そういう言葉を聞くと、奇をてらった表現よりも、お客様と真剣に向き合うことが何より大切だと教えられますね。おやじさんからも、お客様が何を喜ぶかを考えながらやれよと、よく言われます。

1995年。本当に大変なのはここからでした。10代から和食を学ぶ人達がいる中で、桂剥きもろくにできない27歳の素人が入ったわけです。辛いことも多かったです。が、笑顔で一生懸命に頑張っていれば見てくる人は必ずいることも知りました。



▲ 彩りと旬をたっぷり味わう秋の料理

銀座ろくさん亭

東京都中央区銀座8-8-7
第三ソワレド銀座ビル8・9F
☎ 03-3571-1763
営業時間：17:00～22:30 定休日：日曜・祝日
＊ランチは10名様から御予約可
＊カウンター席・個室有



▲ 師である道場六三郎氏と一緒に

1995年。本当に大変なのはここからでした。10代から和食を学ぶ人達がいる中で、桂剥きもろくにできない27歳の素人が入ったわけです。辛いことも多かったです。が、笑顔で一生懸命に頑張っていれば見てくる人は必ずいることも知りました。

今は銀座ろくさん亭の料理長を務めています。創業から47年、カウンター席もあり、肩肘張らずに料理と酒を楽しんでいただけの店です。帰り際に「ああ、この鮎、あと何回食えるかな」と言つて帰る常連さんがいるんです。そういう言葉を聞くと、奇をてらった表現よりも、お客様と真剣に向き合うことが何より大切だと教えられますね。おやじさんからも、お客様が何を喜ぶかを考えながらやれよと、よく言われます。

1995年。本当に大変なのはここからでした。10代から和食を学ぶ人達がいる中で、桂剥きもろくにできない27歳の素人が入ったわけです。辛いことも多かったです。が、笑顔で一生懸命に頑張っていれば見てくる人は必ずいることも知りました。

1995年。本当に大変なのはここからでした。10代から和食を学ぶ人達がいる中で、桂剥きもろくにできない27歳の素人が入ったわけです。辛いことも多かったです。が、笑顔で一生懸命に頑張っていれば見てくる人は必ずいることも知りました。

奇をてらわず、真摯に、和の真髓を貫く道場六三郎氏の教えを受け、サラリーマンから名店の料理長になりました。

して仕事を続けることがで

人口から和食の世

界に入つて、いろんなことがありま

して仕事

お知らせ

ふるさと関東学院募金のご案内

ふるさと関東学院募金は、関東学院各校の教育奨励を目的として

2017年3月に募集を開始いたしました。

関東学院の応援したい学校を指定して寄付していただくことが可能です。

ご寄付をいただいた皆さまにはお礼の品として、本学院の卒業生が

経営する店や会社で製造・販売している商品をお届けいたします。

学校法人関東学院に対する寄付は、特定公益増進法人への寄付金として、

確定申告の手続きにより、税制上の優遇措置を受けることができます。

関東学院の発展のため、皆さまのあたたかいご支援を賜りたく、お願い申し上げます。



▲ 関東学院グッズセット

寄付のお申し込みはこちらから

ふるさと関東学院募金
<http://furusato-kanto.jp/>
(インターネットからのお申し込み)



※入学(園)された年内に新入生保護者及び新入生が寄付された場合は
「入学に係わる寄付金」とみなされて寄付金控除の対象になりません。

お礼の品の提供者を募集しています！

寄付者へのお礼の品を提供していただける事業者を募集しています。
学院への寄付推進だけでなく、貴社商品のPRの一環として、
皆様のご応募をお待ちしています。

募集条件

関東学院各校の卒業生が経営する企業

お礼の品提供者のメリット

特設サイトへの無料掲載 / 商品は関東学院が購入

関東学院募金担当 ☎ 045-786-2685



▲ ペアお食事券 ランチメニュー
特別小懷石コース



▲ めばちまぐろづくし 潮(うしお)

◀ グランドピアノアレンジメント
(光触媒の花)

学校法人
関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
法人事務局 ☎ 045-786-7028(代)
<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

関東学院のびのびのびのば園 ☎ 045-845-0876

関東学院大学
☎ 045-781-2001(代)
● 横浜・金沢八景キャンパス
☎ 045-786-7002
法学部／経済学部／経営学部
理工学部／建築・環境学部／人間共生学部
教育学部／栄養学部／看護学部
大学院(経済学研究科／法学院研究科)
工学研究科／看護学研究科
法科大学院

関東学院六浦中学校・高等学校
☎ 045-781-2525

関東学院六浦小学校
☎ 045-701-8285

関東学院六浦こども園
☎ 045-781-0170

関東学院中学校高等学校 ☎ 045-231-1001
関東学院小学校 ☎ 045-241-2634

横浜市
鎌倉市
逗子市
葉山町

東名高速道路
東海道新幹線

小田原市

関東学院大学
● 国際研究研修センター
(湘南・小田原キャンパス)